

## 令和3年度 研究集録の刊行に寄せて

岩手県高等学校教育研究会特別支援教育部会長

(岩手県立釜石祥雲支援学校長)

柏崎 りえ

学校現場では、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策のため、教室環境や指導体制の整備を行いながら、児童生徒の健康、安全を第一に教育活動を展開してまいりました。病院併設の特別支援学校におかれましては、病院との連携による厳戒態勢の下で、より緊張感をもって授業を設定してきたことと思います。また、各校におかれましては、基礎疾患を有する児童生徒や医療的ケアを必要とする児童生徒に対して、個々の病状への配慮と学習保障に基づく授業内容の再構築が行われたことと思います。こうした状況を踏まえ、学習機会と学力保障の観点から、遠隔・オンライン教育を含むICTを活用した効果的な指導の推進とネットワーク環境の整備が急務であると言えます。

さて、令和3年1月の中央教育審議会では、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現によって、よりよい学びを生み出すことを目指しています。ここに新学習指導要領の着実な実施とICTの活用という新しい視点が加わることで学びの姿はより具体的になり、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓く姿の実現へとつながっていきます。そのため私たちは、特別支援教育を担うための専門性の向上と、関係機関との連携強化による切れ目ない支援の在り方を追究していかなければなりません。

今年度も各校から貴重な研究実践とその成果が寄せられ、特別支援教育部会研究集録第49巻として取りまとめることができました。本部会の事業の取組が、各校における教育実践の充実や研究推進の一助となり、特別支援教育に関わる専門性の向上につながることを願い、研究集録刊行のご挨拶とさせていただきます。